

定禅寺通エリア
まちづくりビジョン
2030

定禅寺通エリアまちづくり基本構想

2022.03

定禅寺通活性化検討会



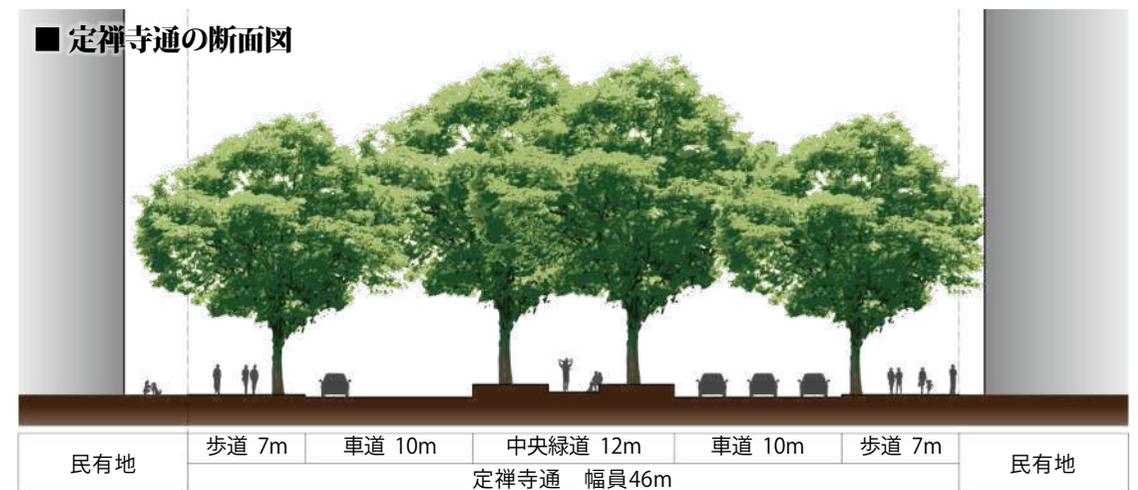
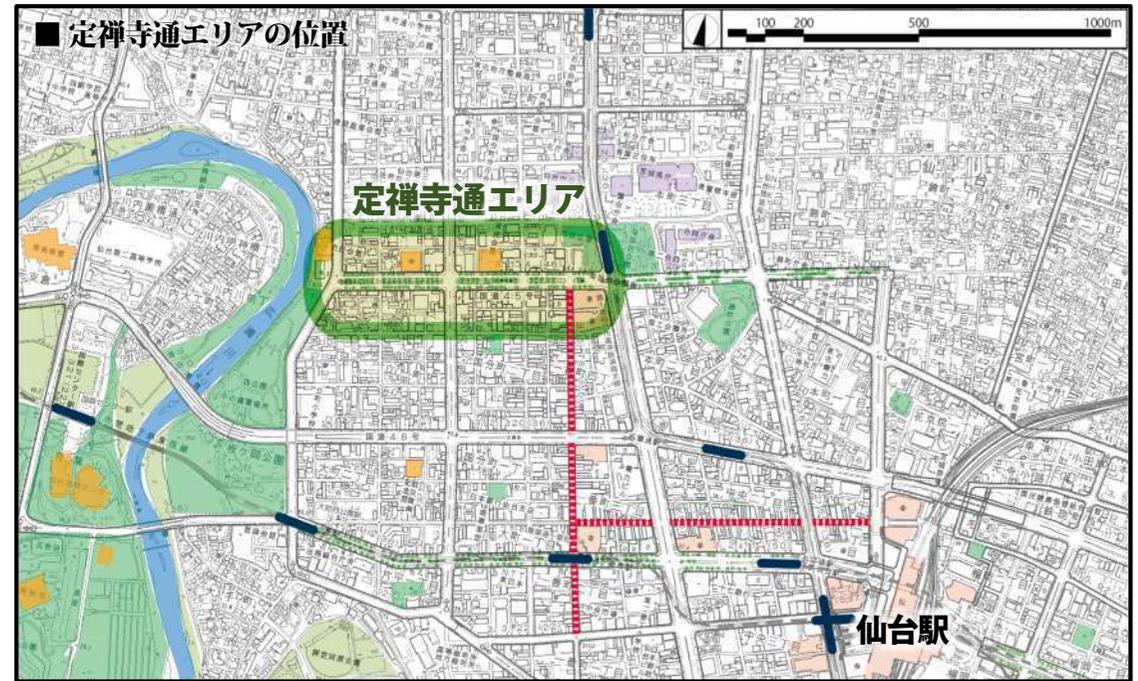
はじめに

定禅寺通は、仙台都心の北側に位置する、西公園通から駅前通を結び、ケヤキやイチョウ並木が続く全長約1,400mの通りです。特に東二番丁通より西は、4列のケヤキ並木が美しく、主要な文化交流施設があり、また定禅寺ストリートジャズフェスティバルやSENDAI光のページェントをはじめとする様々なイベントの舞台として、市民や多くの来訪者にも愛される杜の都のシンボルロードです。

定禅寺通活性化検討会は、そのような杜の都・仙台を象徴する定禅寺通エリアの魅力を向上させ、次世代につないでいくため、官民連携のもとにエリア価値向上につながるまちづくりを推進することを目的とし、定禅寺通エリア内の各商店会や町内会の代表の方、まちづくり団体、定禅寺通に面する土地建物オーナーの方、また本会の趣旨に賛同していただける個人や法人の方々を会員に2018年10月に発足しました。

定禅寺通活性化検討会では、定禅寺通エリアの将来像、活性化や魅力向上に資する取組み、道路空間再構成、歩行空間の利活用、エリアマネジメントなどについて検討を進めてきた他、社会実験による検証や市民との対話なども繰り返し行ってきました。

「定禅寺通エリアまちづくりビジョン2030」は、これまでの検討を踏まえ、定禅寺通エリアにおけるまちづくりの理念・目標やこれらを実現するための戦略等を共有し、宣言するために基本構想としてとりまとめたものです。



まちづくりの目的

定禅寺通エリアが、
「杜の都」のシンボルであり続け、
将来にわたって人々を惹きつけ、
仙台都心の回遊を促し、
仙台の都市ブランドの向上に貢献する。

定禅寺通エリア まちづくりビジョン2030とは

- 定禅寺通エリアにおける関係者が将来のまちづくりの方向性を共有し、その実現を目指し取り組んでいくための指針
- 定禅寺通エリアのまちづくりに向けた、定禅寺通活性化検討会での検討成果のとりまとめ
- 今後も、まちの変化や社会情勢、技術進展などに照らし合わせ、関係者がまちづくりの方向性を共有しながら適宜更新・変更させていく

目次

第1章 まちの、変わらない想い

- 05 定禅寺通エリアへの期待
- 06 定禅寺通エリアの課題
- 07 定禅寺通エリアをアップグレードしよう
- 11 未来へと続く私たちの想い

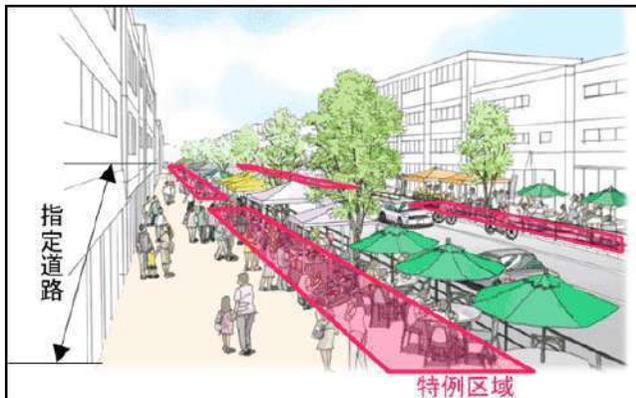
第2章 2030年までには私たちが実現したいこと

- 18 定禅寺通エリアの特徴を生かしたまちづくり
- 19 2030年までには実現したい空間イメージ
- 29 2030年までには実現したい道路空間の考え方
- 30 4つのエリアブランディング戦略
- 31 戦略に基づくプロジェクトメニュー
- 35 エリアマネジメント

第1章

まちの、変わらない想い

定禅寺通エリアへの期待



定禅寺通エリアへの期待の高まり

市民主体によるケヤキ並木を生かしたまちづくりの成熟

- SENDAI光のページェントや定禅寺ストリートジャズフェスティバルなど市民発イベントの定着と全国区化
- 多彩なイベントの開催で生まれる交流人口

様々な公共施設・文化施設の再編が進行

- 仙台市役所本庁舎の建替
- 勾当台公園の再整備
- 西公園の再整備
- 県民会館の移転予定
- 市民会館の老朽化

近隣エリアで居住人口が増加

- 2000年から2015年までの15年で子育て世代を中心に、居住人口が約1.5倍に増加

せんだい都心再構築プロジェクトなど都心再生への機運

- 老朽建築物の建替え促進や高機能オフィスに着目した容積率の緩和
- 都市再生緊急整備地域の拡大などによる民間投資の喚起

居心地がよく歩きたくなる街への期待

- 世界や国のまちづくり動向を踏まえたウォークシフトへの動き
- 都市再生整備計画（仙台都心地区）におけるまちなかウォーカブル区域の指定
- 歩行者利便増進道路など新たな制度・施策の全国的な普及
- 都心部における自動車交通量の減少（1994年から2017年で19.3%減少）

写真上：定禅寺ストリートジャズフェスティバルの様子
写真中：新本庁舎のイメージパース（出典：仙台市）
写真下：歩行者利便増進道路の空間活用イメージ
（出典：国土交通省HP）

定禅寺通エリアの課題

都心におけるコア(核)としての求心力の弱さ

消費や滞在を促す機会や施設が乏しい

- ライフスタイルや価値観の変化に伴い来街機会が減少
- 都心部の他の地域に比べて小売店舗・飲食店の立地が少ない
- エリアのポテンシャルを観光に活かし切れてない
- 沿道から後背地にかけて駐車場用地が多い

建物の老朽化が進んでいる

- 商業系建物の約56%が築40年以上
- 住居系建物の約51%が築40年以上

暮らし機能の不足

- 近隣エリアでは居住人口が増えているが、最寄品・生活必需品を
買えるお店が不足

歩行者通行量が少ない

- 仙台都心部の他のエリアに比べて相対的に歩行者通行量が少ない
- 特に、仙台駅周辺に比べると2.5倍以上の差がある

建物建築時期



定禅寺通平均通行量に対する通行量



定禅寺通エリアをアップグレードしよう

定禅寺通エリアは

これまで積み重ねてきたまちづくりの「歴史」により
市民にひらかれた文化交流・市民活動の拠点として
成長してきました。

仙台開府から
続く歴史



伊達政宗公が仙台開府に際し、城の鬼門（丑寅の方角）にあたるため祈願寺と定め、皈依した定禅寺への道が定禅寺通。

戦災復興による
ケヤキ並木の
誕生・発展



1946(昭和21)年に戦災復興土地区画整理事業の決定。1969(昭和44)年度にケヤキ植樹を完了。

今につながる
文化交流・市民活動
の拠点に成長



1990(平成2)年度に官民連携組織「定禅寺通街づくり協議会」が策定した「定禅寺通街づくり総合プラン」が、地区計画やシンボルロード整備、せんだいメディアテーク整備などにつながり、多彩なイベントの場としても親しまれるエリアとなっている。

定禅寺通り地区街づくり宣言

定禅寺通りのけやき並木は、杜の都・仙台的シンボルであり、その四季折々の表情は、私たちだけでなく、訪れる人々の心をなごませてくれます。

けやきにやさしい街づくりが、夢の膨らむ街づくりにつながります。

街づくりのルールをみんなで考えることが、快適な街づくりにつながります。

みんなで参加できるイベントづくりが、生き生きとした街づくりにつながります。いま、私たちは、この考えのもとに、21世紀に向けて、文化的にも優れた、活気ある街を形成して行くために、みんなの知恵と、みんなの力をここに集めて、街づくりを進めて行くことを宣言します。

1990年12月6日

定禅寺通街づくり協議会

アップグレード

これまでケヤキ並木とともに展開してきた文化交流・市民活動をさらに成熟させるために、
中央緑道はもちろん、
幅員46mの道路空間や
勾当台公園や西公園との近接性を生かした
更なるまちづくりへの挑戦

定禅寺通エリアの系譜

仙台開幕から続く歴史

- 1945(S) 20 ●仙台空襲で市中心部全焼。被災戸数約12,000戸、死者約1,400人。
- 1926(T) 15 ●市電開通（51まで）
- 1891(M) 24 ●東北本線全線開通
- 1889(M) 22 ●市制施行、仙台市誕生（人口86,352人）
- 1871(M) 4 ●廃藩置県により、仙台藩が仙台県となる
- 1600(K) 5 ●伊達政宗、千代を仙台と改め居城とする
- 1504(i) 520 ●定禅寺開山

ハード整備・計画等に関する事項

ソフト・活動等に関する事項

戦災復興によるケヤキ並木の誕生・発展

- 1985(S) 60 ●仙台市都市景観基本計画策定
- 1980(S) 55 ●宮城県沖地震（M7.4）発生。仙台で震度5死者13名
- 1978(S) 53 ●膨刻のあるまちづくり事業開始
- 1977(S) 52 ●ケヤキ並木を保存樹林に指定
- 1975(S) 50 ●市民会館完成
- 1973(S) 48 ●市民会館完成
- 1967(S) 42 ●電線地中化工事完成
- 1964(S) 39 ●県民会館完成
- 1958(S) 33 ●定禅寺通緑地帯と歩道部分にけやき植樹
- 1946(S) 21 ●「定禅寺通櫓下線・定禅寺通緑地」都市計画決定。幅46m中央に緑地帯が整備される。
- 戦災復興土地区画整理事業の決定
- 仙台七塔10年ぶりに復活。
- 141ビル完成
- 地下鉄南北線開業（勾当台公園駅入口7箇所）
- 仙台市中心市街地街路整備基本計画策定「緑地とけやきのプロムナード」
- せんだい光のページェント開催
- ハロー定禅寺村設立
- 青葉まつり開催
- 中央緑道レンガタイル整備（現状の高さ）
- 市民まつり（西公園）開始
- ライブ141定禅寺ストリートジャズフェス開催
- 定禅寺通街づくり協議会設立

今につながる文化交流・市民活動の拠点に成長

- 2015(H) 27 ●地下鉄東西線開業
- 2011(H) 23 ●死者（市民）1,002名、全壊建物30,034棟。東日本大震災（M9.0）発生。宮城野区で震度6強。
- 2003(H) 15 ●ハロー定禅寺村再結成
（中央緑道にてオープンカフェ社会実験実施）
- 2002(H) 14 ●定禅寺通利活用方策検討委員会設立
- 2001(H) 13 ●せんだいメディアテーク開館
- 1999(H) 11 ●定禅寺通シンボルロード整備事業（2001年まで）
- 1998(H) 10 ●モデル地区景観形成地区指定
- 1997(H) 9 ●定禅寺通シンボルロード整備計画策定
- 1996(H) 8 ●ハロー定禅寺村解散
- 1993(H) 5 ●杜の都の景観基本計画策定
- 「定禅寺通地区計画」決定
- 1991(H) 3 ●定禅寺通街づくり総合プラン策定
- 1990(H) 2 ●勾当台公園、地下駐車場完成
- 1989(H) 1 ●仙台市・政令指定都市としてスタート
- 仙台ハーフマラソン大会開催
- せんだいジャズフェスティバル開催
- 「定禅寺通り地区まちづくり宣言」発表
- 定禅寺通街づくり協議会
- みちのくYOSAKOIまつり開催

更なる挑戦

- 2022(R) 4 ●定禅寺通エリアまちづくりビジョン2030策定
- 2021(R) 3 ●定禅寺通大規模社会実験実施
- 2019(R) 2 ●一部車線制限を伴う社会実験実施
- 2018(R) 1 ●定禅寺通活性化検討会設立

参考：定禅寺通活性化検討会の主な活動

2018年度【共有・論点整理】



設立総会(第1回全体会)

- 正会員36名参加の下、10/29に設立総会を開催。規約の承認と役員を選任が行われた。【写真】
- 引き続き行われた第1回全体会では、仙台市が2017年度実施した基礎的調査の結果と、今後の進め方について報告があった。

キックオフミーティングとワーキンググループ

- 11/18、会員59名が参加したキックオフミーティングでは、定禅寺通エリアへの思いやビジョン、アクションについて意見交換した。【写真】
- これを皮切りに、専門家を講師に招いたワーキンググループを年度内4回開催(11/19, 12/5, 1/23, 2/26)。



幹事会

- 会長・副会長及び幹事の計16名で構成される幹事会の第1回を1/16に開催。【写真】
- 幹事会では、全体会に付議する重要事項をはじめ、検討会の運営や社会実験、基本構想などについて協議。書面開催含め2021年度までに計30回開催。



2019年度【実践・検証を繰り返しながら具体的な取組みを検討】



テーマ型ワーキンググループ

- 専門家や行政関係者等との意見交換を行いながら、各テーマの論点を整理し、社会実験や基本構想案に反映するテーマ型ワーキンググループがスタート。【写真：道路空間再構成TWG第1回ミーティング(6/1)】
- 以降、2021年度までに7つのテーマで全10回開催。

プロジェクト型ワーキンググループ

- 具体的なアクションアイデアを持つ会員グループが、試行的な実践を通じて、その課題や成果を基本構想の検討に反映するプロジェクト型ワーキンググループ。まずは2グループから始動。【写真：LIVING STREET PROJECT】
- 最終的に6グループが結成された。



パブリックミーティング(市民参加型シンポジウム)

- 検討会での検討内容やその状況について、広く市民に公開し、意見を収集する機会として「定禅寺通パブリックミーティング」を年度内2回開催。【写真：パブリックミーティングvol.1～定禅寺通エリアで仕掛ける(6/9)】
- 市民参加型シンポジウムは、2021年度までに計4回開催。



2020年度【実践・検証を繰り返しながら具体的な取組みを検討】



基本構想検討チーム

- まちづくり基本構想の策定に向けて、若手幹事やプロジェクト型ワーキンググループの代表がメンバーとなる「基本構想検討チーム」を2019年度に組成。メンバー同士の議論にとどまらず、専門家や実践者を招いての意見交換なども実施。【写真：第7回(7/14)】
- オンライン併用しながら、2021年度までに計20回開催。

プロジェクト型 ワーキンググループ

- 2020年度に3つのグループが加わり、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、それぞれ試行的な実践を継続。【写真：イナトラほろ酔い縁日(7/31-8/7)】



定禅寺通から新たな潮流を

JOZENJI STREET STREAM

定禅寺通活性化検討会

公式WEBサイトの公開

- プロジェクト型ワーキンググループ「定禅寺通エリアブランディング・プロジェクト」の一環で公式WEBサイトを12月に公開。



2021年度【合意形成・基本構想の策定】

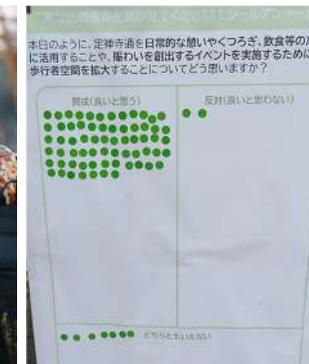


大規模社会実験の開催

- 車線削減による交通への影響と道路空間の利活用の日常化に向けた効果や課題等を調査するため、定禅寺通の車線を一部削減し、拡張した歩行者空間を利活用する大規模社会実験を仙台市との共催により8/20~9/7に実施。【写真：交通規制案内板】

大規模社会実験での 若者の活躍と市民の賛同

- 大規模社会実験では、学生を中心に多くの若者が参画・協力した。【写真左：来訪者アンケートを依頼する若者】
- 「日常的な憩いや賑わい創出などのために歩行者空間の拡大」に対して、来訪者の8割が賛成。【写真右：大規模社会実験期間中に実施したシールアンケート】



基本構想を全体会で承認

- 第7回全体会(3/16)にて「定禅寺通エリアまちづくり基本構想」の策定を承認。
- エリアマネジメント推進体制における合意形成組織及び実行組織となる「定禅寺通街づくり協議会」及び「(仮称)一般社団法人定禅寺通エリアマネジメント」に対する基本構想の継承を承認。【写真：第7回全体会での審議】

未来へと続く私たちの思い

まちづくりの理念

世界に誇るケヤキ並木と共に 「ここにしかない」 プライスレスな時間と体験を。

このエリアならではの魅力があふれる定禅寺通※で、
ケヤキ並木をはじめとする緑を大切にしたい人
豊かな都心暮らしを満喫したい人
充実したワークライフを過ごしたい人
新しいことにチャレンジしたい人
仙台・東北の魅力を味わいたい人
文化・芸術を楽しみたい人
自分時間を楽しみたい人
が出逢い、文化を創造し、価値を高め合う。



「まちづくりの理念」のもと私たちが目指す街の姿

歩きたくなる、巡りたくなることで

「出逢」が広がる街

安全で快適に、楽しく回遊・滞留できる環境をつくり、多様なヒト・コト・情報などに出逢える街を目指します。

人々が行き交い感性を触発し合うことで

「文化」を創造し続ける街

常に人々が行き交い、交流が広がる状況をつくり、新しい文化やアクティビティが生まれる街を目指します。

ケヤキ並木を誇りにし魅力を広げることで

「価値」を高め合う街

ケヤキ並木の魅力を様々な活動に活かし、エリアの価値をさらに高めつつケヤキ並木の魅力を後世に継承する街を目指します。



※定禅寺通エリアならではの魅力とは

- 日本一のケヤキ並木と緑道があること
- 官公庁やオフィスがあり多くのワーカーがいること
- 西公園や勾当台公園など魅力的な公園につながっていること
- 緑道を中心にクリエイティブな活動があること
- 穏やかな都心居住が可能であること
- 文化活動・市民活動の拠点施設が集積していること
- おもてなし溢れる個店が多くあること
- 東北最大の歓楽街・国分町につながっていること

「目指す街の姿」を実現するためのまちづくりの空間像

目指す街の姿を実現するには、

「人々が安全、快適に通行・滞在できる空間」

「豊かな時間を過ごすことができ、多様なアクティビティが生まれる空間」

が不可欠であり、そのためには、

『ひととくるま(自動車や自転車など)との交錯の危険が無い環境整備』

『利活用しやすく過ごしやすいゆとりある広い空間と必要な設備の整った環境整備』

が必要です。

また、

「環境志向に伴う車依存社会からの脱却」

「高齢化や健康志向に伴う安全で快適な歩行環境のニーズの高まり」

など、くるま中心からひと中心の都市空間への転換を求める社会的要請を踏まえ、

幅員46m長さ700mの都市空間を有する定禅寺通においても

世界に誇るケヤキ並木や中央緑道など唯一無二の強み・個性を最大限に活用し

ひととくるまの関係性を再考すること

が必要です。

このような考え方から、定禅寺通エリアでは

ひと中心の空間づくり

を進めます。

目指す街の姿を実現するための空間像

【必要な空間】

安全・快適な通行・滞在
豊かな時間・多様な活動



【必要な整備】

交錯の危険の無い環境
広さと設備の整った環境



【社会的要請】

都市空間における
人と車の関係性の見直し



【強み・個性】

世界に誇るケヤキ並木
中央緑道



定禅寺通エリアを
ひと中心の空間へ

「ひと中心の空間づくり」のステップ

空間利活用の熟度などに応じて、**段階的に道路空間の再構成**を図っていきます。

現在、定禅寺通沿道には多くの権利者・事業者がおり、
また、歩行者のみならず、公共交通や商用車を含む多くの自動車や自転車も通行しています。

現状、自動車利用を前提とした社会生活が浸透していることや、
道路空間を日常的に利活用することに不慣れであることなどの課題もあり、
道路空間再構成を進めるにおいては、これら多様な関係者の理解のもと
効果検証や制度活用なども重ねながら、**段階的・計画的に道路空間の再構成**を図っていきます。

現在～

空間利活用 醸成期

2030年～

空間利活用 常態期

20XX年～

空間利活用 成熟期



まずは、「定禅寺通り地区街づくり宣言」発表から40年となる2030年を目標年度に設定し、「空間利活用常態期」に向けた取組みを進めます。

参考：道路空間再構成に関する検討の経緯

1) 空間利活用の視点を中心とした議論の積み重ね

定禅寺通活性化検討会では、道路空間の再構成について、歩行者と自転車及び自動車の関係性や自動車交通への影響なども考慮しながら、空間利活用の視点での議論を中心として、専門家を交えた会員同士の意見交換等を重ねてきました。検討会の幹事会やテーマ型ワーキンググループ、市民参加型シンポジウムにおいては、仙台市が実施した「道路空間再構成の3つのパターン」における交通シミュレーションの結果も共有した上で議論を行い、各パターンについて様々な意見が出されました。

「道路空間再構成の3つのパターン」と各パターンに対する意見など				
	片側1車線削減	片側2車線削減	半断面車線廃止+片側1車線化	3つのパターン以外の意見
道路空間再構成の模式図				フルモール化/公園化 (車両全面通行禁止) トランジットモール化 (公共交通等のみ通行可能) 現状維持 (片側3車線)
パターンに対する評価の傾向	・「現実的」、「すぐにできそう」との意見が多い一方で、「今と変わらない」との意見も多数	・「歩道の広がり・活用への期待」がある一方で、「渋滞など交通への影響」を懸念する意見も	・「広い空間・活用への期待」が多いが、「不公平感・バランスの悪さ」や「渋滞など交通への影響」を懸念する意見も多数	
その他の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車走行空間の設置により歩行者の安全性が向上する一方で、自転車と停車車両の交錯の危険性を懸念 ・利活用のためのインフラ設備（上下水道、電気、トイレなど）の整備も必要 ・中央緑道の使いやすさや歩きやすさの向上（土舗装の改良など） ・ハード（空間整備）よりもソフト（コンテンツや規制緩和など）が重要 ・ケヤキ並木の保全・継承のあり方の検討が必要 ・荷捌きスペースの設置も必要 ・中央緑道と歩道の往來のしやすさの向上 			

2) “片側1車線削減を基本”とする大規模社会実験の実施を決定

交通シミュレーションの結果（“片側2車線削減”と“半断面車線廃止+片側1車線化”の場合は大きな混雑悪化が想定）及び関係機関との協議を踏まえ、第5回全体会（2021年1月16日開催）において、「“片側1車線削減”を基本とする形以外の道路空間再構成の実現には様々な課題があり、社会的環境の変化を考慮しながら各種施策を積極的に行ったとしても、解決にはかなりの時間を要する」ことから、**段階的に取組んでいくことの必要性を確認し、「短期的（概ね10年）に実現見込みがある“片側1車線削減”を基本**”とした車線規制による大規模社会実験の実施を議決しました。

3) 大規模社会実験(2021年8月20日～9月7日実施)における調査結果

大規模社会実験では、仙台市が「片側1車線削減」を基本とした車線規制と「車道への自転車走行空間の整備」等を実施し、それによって生まれる公共空間の利活用や空間演出などを定禅寺通活性化検討会が担いました。市が実施した交通への影響や空間利活用の取組みなどの効果に関する調査では、「**車線規制による自動車交通への影響（混雑等）は、ほとんど生じなかった**」、「**（空間利活用により）滞留の場所やコンテンツを提供することで人々の多様な活動が誘発された**」などの結果とともに、多くの来訪者や沿道関係者から「歩行者空間の拡大への賛同」や「歩道利活用に対する肯定的な意見」も得られるなど、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、出店コンテンツの一部を中止したものの、今後の空間利活用に向けた貴重な成果がありました。

交通量等調査結果のポイント

- ① 自動車
 - ・ 車線規制による自動車交通への影響（混雑等）は、ほとんど生じなかった。
 - ・ 周辺道路を通行する車両の所要時間は、全体的には大きな増加は見られなかった。
- ② 歩行者
 - ・ 社会実験前と比べて、歩行者の通行量に大きな変化は見られなかったが、出店イベントが行われた日は中央緑道の歩行者通行量が増加した。
- ③ 自転車
 - ・ 車道を走行していた自転車に他の車両との錯綜はほとんど見られなかった。
 - ・ 歩道上における錯綜は、自転車利用者のルールやマナーの違反によるものが多かった。
- ④ 駐停車スペース利用状況
 - ・ 社会実験前と比べて、定禅寺通において駐停車車両が減少した。また、社会実験期間中は、多くの車両が設置した停車スペース内を利用していた。

利活用効果測定調査結果のポイント

- ① 行動調査
 - ・ 滞留の場所やコンテンツを提供することで、滞在者数が2倍強に増加するなど人々の多様な活動が誘発され、設えによって活動の内容も変化した。
- ② アンケート調査

設問: 定禅寺通を日常的な憩いやくつろぎ、飲食等のために活用することや、賑わいを創出するイベントを実施するために、歩行者空間を拡大することについてどう思いますか

対象者	賛成	反対	どちらともいえない
沿道関係者 (n=83)	65%	13%	22%
来訪者 (n=335)	82%	4%	13%

設問: 歩道が本日のように（テーブルやベンチ、キッチンカーの設置等）使われることについてどう思いますか（複数回答可）

項目	来訪者 (n=231)	沿道関係者 (n=83)
エリアに活気が出てよい	54%	72%
休憩スペースができて出かけやすい	44%	45%
訪れたいくなる	32%	30%
歩行空間が狭まって迷惑	4%	3%
歩行者の安全対策が必要	14%	28%
ポイ捨て・迷惑行為への対応が必要	12%	33%
その他	5%	11%
- ③ 市民意見
 - ・ コールセンターなどに寄せられた市民からの意見として、コロナ禍での実施に関するもの他、「駐停車車両の存在で自転車が走れる空間になっていない」、「自転車のルールが守られていない」など、「自転車」「自動車・車線規制」に関するものが多かった。

4) 実現可能性を考慮した段階的な道路空間再構成

ひと中心の空間づくりとして、「フルモール」や「トランジットモール」、「片側2車線削減」などを目指すことも考えられます。しかしながら、それらの整備形態は、現状では自動車交通への影響が大きく、多様な関係者の理解を得るためには相当な時間を要することが想定されます。一方で、これまでの社会実験の取組みなどを通じて、歩行者の安全性の向上と空間利活用の両立へのニーズが高まっています。定禅寺通活性化検討会としては、**大規模社会実験の結果を生かし、まちづくりの動きを加速するためにも、2030年を当面の目標年次に定め、早期に実現可能な道路空間の再構成により、歩行者空間の拡幅を進めることを優先して**いきます。

第2章

2030年までには実現したいこと